

スポーツ振興事業 経営分析経過報告書

2024年11月
都市ブランド創造局スポーツ振興課

1. スポーツ振興施策の現状

2. スポーツ戦略の考察

1. スポーツ振興施策の現状

2. スポーツ戦略の考察

スポーツの価値・効果、社会情勢等

スポーツの価値・効果

スポーツは、個人レベルでは心身の健全な発達や体力向上、健康寿命の延伸につながるだけでなく、スポーツを通じた達成感や爽快感を得ることができ、ストレス解消や精神的な充実感をもたらします。また、社会レベルでは、地域コミュニティの強化、経済活性化、まちのにぎわいの創出にもつながります。ほかにも、礼儀や協調性を学ぶことができる教育的価値や、スポーツを通じた国際交流による国際的価値など、多種多様な価値があります。

社会情勢等

国では、平成23(2011)年8月に施行された「スポーツ基本法」に基づき、令和4(2022)年3月に「第3期スポーツ基本計画」が策定されました。

この計画では、社会情勢の変化やスポーツを取り巻く環境に対応し、持続可能な社会の実現を目指していくため、「する」「みる」「ささえる」視点に加え、スポーツで「つくる／はぐくむ」、スポーツで「あつまり、ともに、つながる」、スポーツに「誰もがアクセスできる」といった新たな3つの視点が追加されました。

このような視点を踏まえ、持続可能な社会の実現を目指すべく、社会情勢等の変化をすばやく的確にとらえ、スポーツを推進していくことが求められています。

そして現在、人口減少・少子高齢化の進行をはじめ、新型コロナウイルス感染症の影響によるライフスタイルの変化、コロナ禍における東京オリンピック・パラリンピックが開催されたことなどにより、スポーツが社会活性化にもたらす価値を再認識することができました。

また、スポーツ庁は「モノ」から「コト」への国民の消費トレンドの変化や、東京オリンピック・パラリンピックなどの大規模国際大会の開催を契機としたスポーツ関連消費や投機が高まる機会を活かし、スポーツを「産業」の一つとして捉え、スポーツの「成長産業化」を目指しています。

市の組織・体制

- ・都市ブランド創造局にスポーツ部スポーツ振興課を設置し、36名を配置。
- ・市民がスポーツに親しむ機会の創出や大規模国際スポーツ大会等を推進。
- ・スポーツ施設は、指定管理者制度により運営。

組織体制

スポーツ部 36 部長1 課長7 係長11 係員等17

◆スポーツ部長

- スポーツ振興課長
 - － 企画係長－5
事業調整担当係長
 - スポーツ振興係長－4
スポーツ振興担当係長
- インターハイ担当課長
 - － インターハイ担当係長
- スポーツコミッション担当課長
 - － スポーツコミッション係長－2
- スポーツイベント担当課長
 - － スポーツイベント担当係長－2
スポーツイベント担当係長
- スポーツイベント担当課長
- スポーツ施設担当課長
 - － 施設管理係長－2
計画担当係長－1
整備担当係長－1
- ギラヴァンツ北九州担当課長

協働
パートナー

スポーツ
協会

総合型
地域スポーツ
クラブ

トップ
アスリート

プロスポーツ

企業
スポーツ

国・県

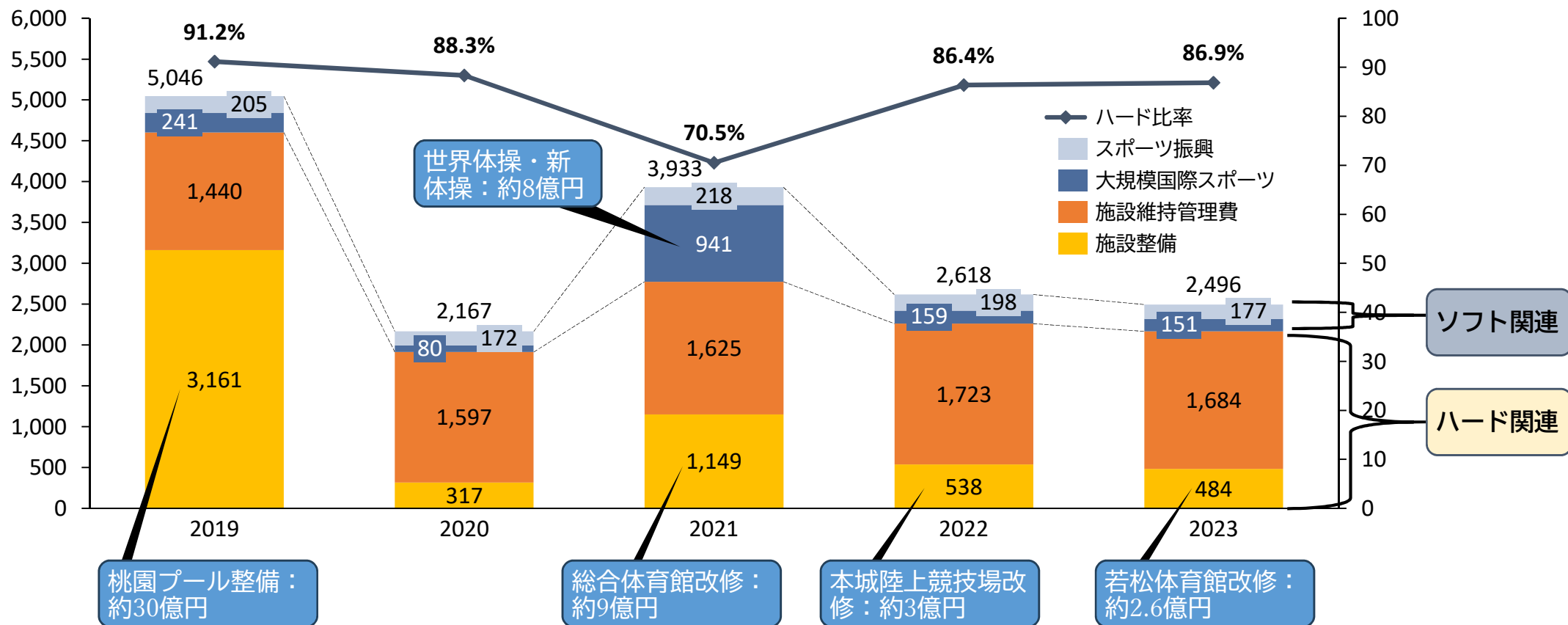
指定管理

市内の
スポーツ施設

スポーツ振興施策決算の推移

- スポーツ振興課の決算のうち、施設整備と施設維持管理費(ハード関連)に係る割合は8-9割程度と大きく、今後は施設の老朽化の進展により、ハード関連経費の更なる増加が見込まれる
- 結果として、ソフト事業に掛けられる予算が更に逼迫していく可能性が大きい

スポーツ振興の決算の推移 (百万円)



ソフト事業決算の内訳(令和5年度)

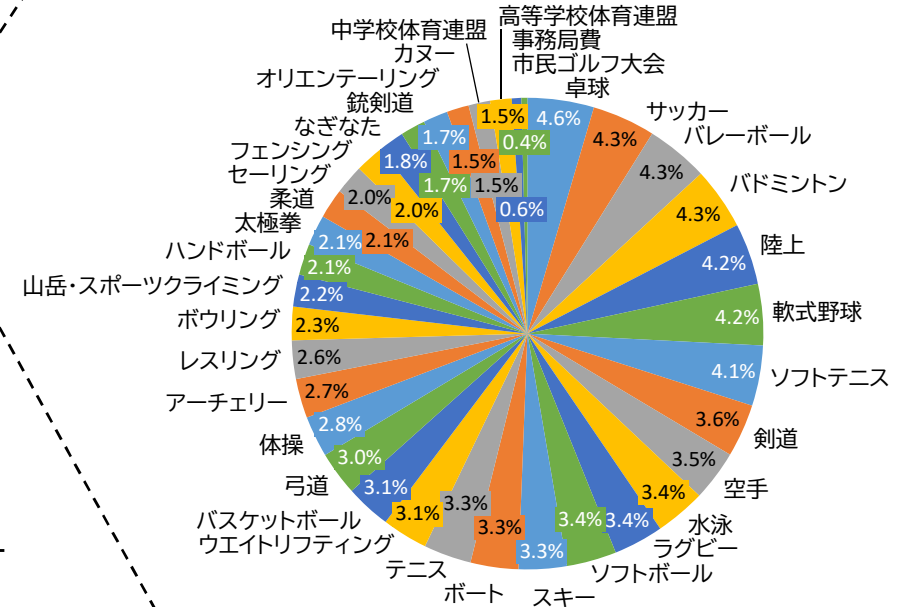
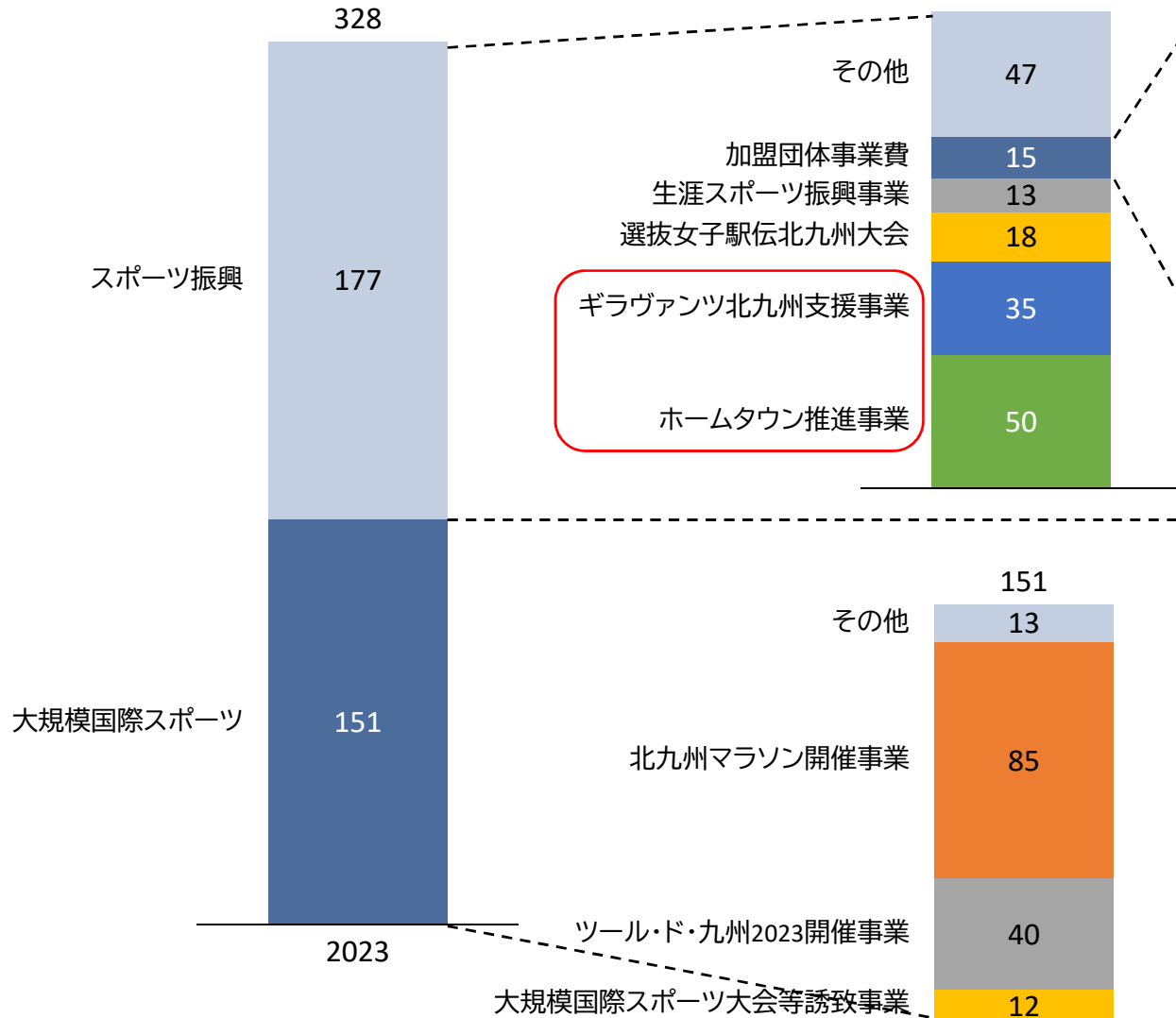
- ソフト事業の予算のうち、ギラヴァンツ関連が75百万円、北九州マラソン開催事業が85百万円等、大きな支出項目は決まっている一方で、各加盟団体への補助金等は分散している(一団体当たり数十万円)

ソフト関連の決算

(百万円; 令和5年度)

「スポーツ振興」と「大規模スポーツ」の内訳

加盟団体事業費の内訳

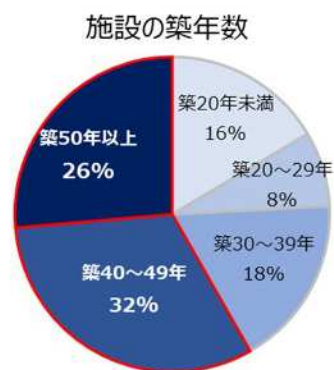
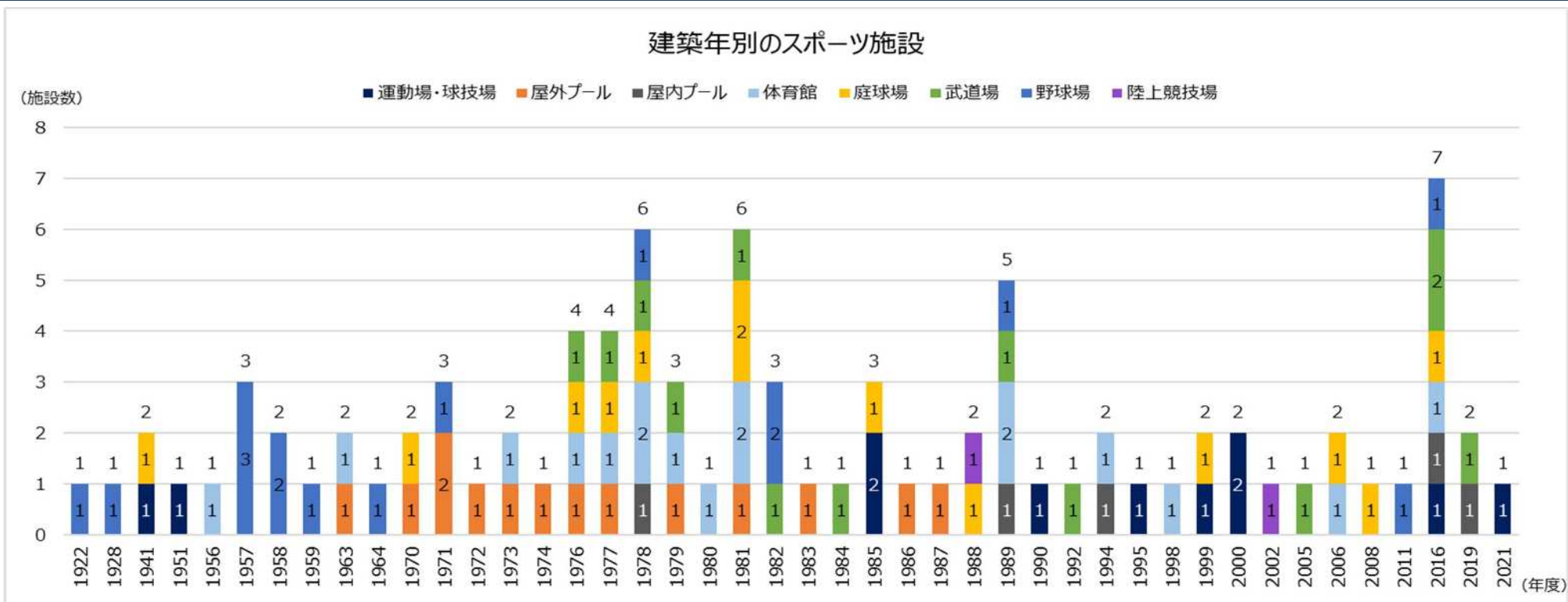


北九州マラソン2024



スポーツ施設の概要

・築年数が40年を超える施設が過半数を占めるなど、老朽化が進んでおり、今後、公共施設マネジメントの考え方にに基づき施設の最適化に向けた検証を実施予定。



(築年数別の内訳)

	築50年以上	築40~49年	築30~39年	築20~29年	築20年未満
運動場・球技場	2	0	3	4	2
屋外プール	7	5	2	0	0
屋内プール	0	1	2	0	2
体育館	3	8	3	1	2
庭球場	2	5	2	1	3
武道場	0	7	2	0	4
野球場	10	3	1	0	2
陸上競技場	0	0	1	1	0

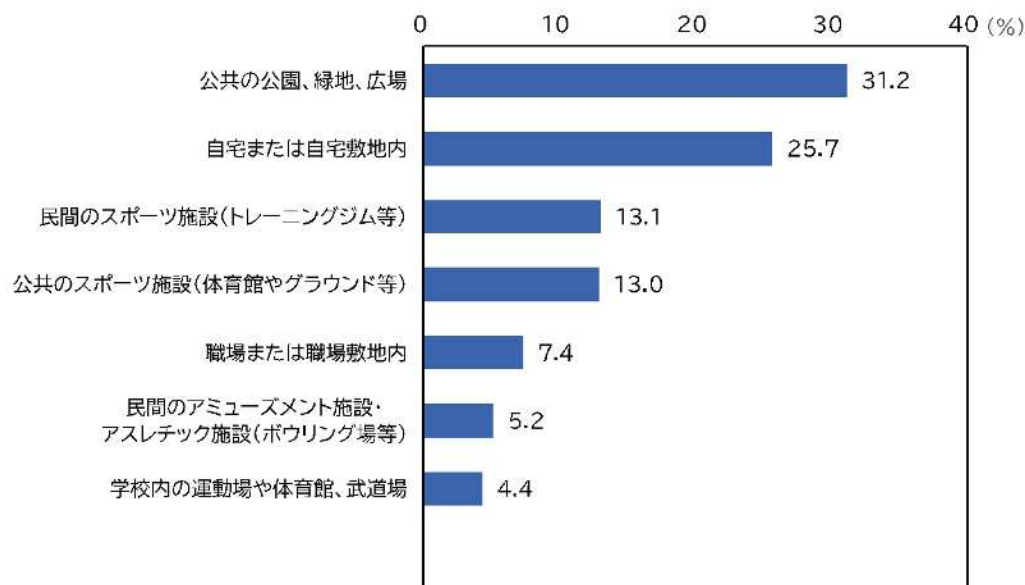
北九州市民実態調査の結果

- ・健康づくりに関心が高い層などを中心に、身近な公園などで気軽にスポーツに親しむ市民が多い。
- ・スポーツ観戦に関心がある市民は多いものの、実際に競技場でスポーツを観戦した市民は減少。

項目	内容
調査対象	市内に居住する満18歳以上(令和5(2023)年1月1日現在)の男女
標本数	3,000人(住民基本台帳から無作為抽出) 回答数:1,016人 回答率:33.8%
調査方法	郵送・Webによるアンケート調査
調査時期	令和5年2月～3月

問:運動・スポーツを行った場所

運動・スポーツを行った場所については、「公共の公園、緑地、広場」が31.2%と最も多く、次いで「自宅または自宅敷地内」が25.7%、「民間のスポーツ施設」が13.1%となっています。



問:実際に競技場でスポーツの試合を見たいか

スポーツ観戦の意向については、「どちらかといえば見たい」が32.2%、次いで「見たい」が29.2%となっており、合計した観戦に興味がある人は61.4%となっています。



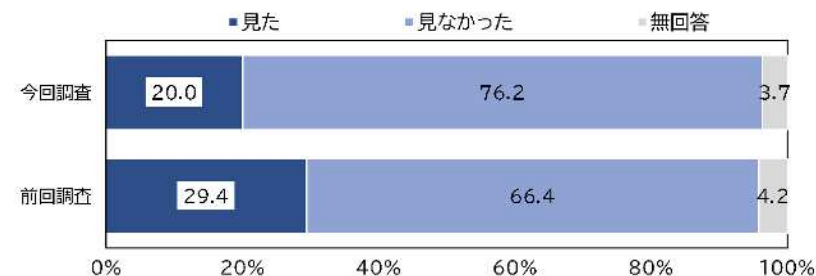
問:競技会場でスポーツの試合を観戦したか

【 全体の特徴 】

1年間の競技会場でスポーツ観戦については、「見た」が20.0%、「見なかった」が76.2%となっています。

【 前回調査との比較 】

前回調査と比較すると、「見た」が前回調査より9.4ポイント減少、「見なかった」が9.8ポイント増加となっています。



1. スポーツ振興施策の現状・課題と今後の方向性

2. スポーツ戦略の考察

北九州市のスポーツの歴史的背景

・企業スポーツを中心に多くのスポーツがさかんに行われおり、プロスポーツチームも多彩

企業スポーツ

- 昭和の時代は、八幡製鐵を中心に、企業スポーツが北九州市のスポーツシーンを牽引
 - 1964年の東京オリンピックでは、八幡製鐵から陸上、水泳、サッカー、バレーボールに計18名の選手を送り込み、水泳やバレーボールのメダル獲得に貢献
 - メキシコ五輪では、戸畑中央高校出身で八幡製鐵所属の君原健二がマラソンで銀メダルを獲得
 - 陸上:安川電機陸上部や黒崎播磨陸上競技部は近年も全日本実業団対抗駅伝での上位入賞やオリンピック選手(中本健太郎)を輩出するなど活躍
 - 社会人野球:八幡製鐵と門司鉄道管理局(「製門戦」)が牽引
- リストラなどにより企業スポーツはかつてよりは衰退
 - 社会人野球の新日鐵八幡は2003年限りで廃部

強豪校、スポーツクラブ

- バドミントンや卓球は、北九州市内や周辺に指導力の高い学校やスポーツクラブが存在
 - バドミントンは、九州国際大学付属高校(八幡東区)が強豪で、インターハイの常連
 - ・ 2018年時点で22年連続35回目のインターハイ。潮田玲子や池田信太郎などの母校
 - ・ 平成10年、11年高校総体優勝、平成24年全国高校選抜バドミントン大会優勝
 - 卓球は各地区のクラブで好選手を育成
 - ・ 八幡西区の石田卓球クラブは岸川聖也、早田ひな等を輩出
 - ・ また、希望が丘高校(福岡県中間市)はインターハイに男子16年、女子12年連続出場中
 - 高校野球では、九州国際大学付属高校が春の選抜準優勝(平成23年)
 - 高校駅伝で、北九州市立高校(旧戸畑商業高校)が平成15年以降全国高校女子駅伝11回出場(最高4位)

プロスポーツチームの集積

- ギラヴァンツ北九州(サッカー):サッカーJ3リーグに所属し、ミクニワールドスタジアム北九州がホームスタジアム
J2リーグ5位が過去最高順位。
- ボルクヴァレット北九州(フットサル):北九州市を本拠地とするフットサルチーム。日本フットサルリーグディビジョン1に所属
- 北九州下関フェニックス(野球):野球独立リーグ、九州アジアリーグに所属。設立者は堀江貴文氏
- Takagi北九州Water Wave(ソフトボール)(株)タカギソフトボール部で、前身は東芝北九州工場の女子ソフトボールチーム。2022年よりJDリーグに参戦

公営競技

- 競輪:旧小倉市は競輪の発祥地。北九州メディアドームは1998年にオープン。吉岡稔真などのトップ選手を輩出
- 競艇:若松競艇が1952年に開設。植木通彦などのトップ選手を輩出

北九州市にゆかりのある著名スポーツ選手

- ・様々な競技で著名アスリートを輩出している
- ・最近では早田ひな選手をはじめとしたキタキュウオリンピックの活躍が注目され、街を大いに盛り上げた

北九州市スポーツ大使

サッカー

- ・池元 友樹(元プロサッカー選手)
- ・永井 謙佑(プロサッカー選手)
- ・東 慶悟(プロサッカー選手)
- ・本田 泰人(元プロサッカー選手)

野球

- ・今永 昇太(MLB選手)
- ・柴原 洋(プロ野球解説者)
- ・カズ山本(元プロ野球選手)

卓球

- ・早田 ひな(卓球選手)
- ・岸川 聖也(元卓球選手)

バドミントン

- ・池田 信太郎(元バドミントン選手)
- ・潮田 玲子(元バドミントン選手)

マラソン

- ・中本 健太郎(元マラソン選手)
- ・君原 健二(元マラソン選手)
- ・金 哲彦(プロランニングコーチ)

競輪

- ・北津留 翼(競輪選手)
- ・吉岡 稔真(元競輪選手)

その他

- ・内村 航平(元プロ体操選手)
- ・竹下 佳江(元バレーボール選手)
- ・西山 将士(元柔道家)
- ・田中(入江) ゆき(レスリング選手)
- ・太田 和臣(元ウエイトリフティング選手)
- ・植木 通彦(元競艇選手)
- ・福井 烈(元プロテニス選手)
- ・山田 章仁(ラグビー選手)
- ・箕内 拓郎(元ラグビー選手)

北九州市ゆかりのパリ五輪・パラリンピック出場選手

早田 ひな	卓球
松山 奈未	バドミントン
野田 紗月	アーチェリー
大畑 歩夢	サッカー
原田 周大	ボクシング
藤井 菜々子	競歩
柳井 綾音	競歩
垣田 真穂	自転車トラックレース
福田 果音	パラ水泳
藤野 遼	パラバドミントン
古川 佳奈美	パラ卓球



今永 昇太
(MLB選手)



早田 ひな
(卓球選手)

北九州市における育成事例(卓球・バドミントン)

- ・【卓球】石田卓球や希望が丘高校など、卓球においては幼少期からトップアスリートが育っていく環境が存在し、競技人口の裾野拡大や都市イメージの向上などに大きく貢献



- ・早田ひなは、石田卓球クラブ出身で、希望が丘高校に進学
- ・希望が丘高校(福岡県中間市)はインターハイに男子16年、女子12年連続出場中

石田卓球ホームページ(<https://ishida-n-plus.com/>)より

- ・【バドミントン】幼少期からクラブチームでの活動が盛んで、九州国際大付属高校などの強豪校も存在



バドミントン部

第2体育館が練習場です。男女とも全国大会の常連で、特に女子は全国制覇を達成しています。在籍中にジュニアの世界大会で優勝した選手もあり、これまでに多くのオリンピック選手を輩出してきました。部のホームページ「八九羽会」へはコチラからどうぞ。

<女子>

- 活動日 火～日曜
- 活動時間 (平日) 5:30～7:00、14:10～17:10、(休日) 8:30～12:00
- 休日 月曜

<男子>

- 活動日 月火木～日曜
- 活動時間 (平日) 16:00～17:30、(休日) 13:00～17:00
- 休日 水曜

- ・九州国際大学付属高校(八幡東区)は、2018年時点で22年連続35回目のインターハイ。平成10年、11年高校総体優勝、平成24年全国高校選抜バドミントン大会優勝
- ・明神監督はU-19女子日本代表の監督も務める
- ・松山奈未、潮田玲子、池田信太郎、森かおり、栗原文音という5人のオリンピック選手を輩出

九州国際大学付属高校ホームページ(クラブ活動紹介→運動部)
(<https://www.959h.kif.ed.jp/life/club/athletic/>)より

北九州市のスポーツにおける強み／資産

- 北九州市には、プロスポーツや企業スポーツのほか、スポーツクラブや強豪校等の活動も盛ん

	概要	ハード	ソフト	人材
サッカー (ギラヴァンツ 北九州)	<ul style="list-style-type: none"> 2024年シーズンはJ3で7位 営業収入は約10億円で推移、23年度は約1億円の営業損失 市の予算額は、95百万円(補助金35百万円、ホームタウン推進事業(市民招待など)40百万円、広報20百万円) 	<ul style="list-style-type: none"> 北九州スタジアム(ミクニワールドスタジアム)を北九州市が2017年に建設 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 収容人数15,000人 ▶ 平均観客人数は24年は4,649人 	<ul style="list-style-type: none"> J3のホームゲーム19試合をミクニワールドスタジアムで開催 	<ul style="list-style-type: none"> 池元 友樹 永井 謙佑 東 慶悟 本田 泰人
企業スポーツ プロスポーツ	<ul style="list-style-type: none"> 八幡製鐵を中心に、企業スポーツが牽引したが、リストラなどにより企業スポーツはかつてよりは衰退 	<ul style="list-style-type: none"> ボルクバレット北九州(F1リーグ:フットサル) 日本製鉄堺ブレイザーズ(SVリーグ:バレーボール) ライジングゼファークオカ(B2リーグ:バスケットボール) takagi 北九州 Water Wave(JDリーグ:ソフトボール) 北九州下関フェニックス(九州アジアリーグ:野球) 安川電機陸上部、黒崎播磨陸上部 など 		<ul style="list-style-type: none"> 君原 健二 (元マラソン選手) 中本 健太郎 (元マラソン選手)
スポーツクラブ・強豪校	<ul style="list-style-type: none"> <u>卓球</u>や<u>バドミントン</u>をはじめ、オリンピック選手を輩出 	<ul style="list-style-type: none"> 北九州市立総合体育館で全日本大会や国際大会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> 石田卓球クラブ、希望が丘高校(卓球) 九州国際大学附属高校(バドミントン) 	<ul style="list-style-type: none"> 石田卓球N+は早田ひなや岸川聖也を輩出 九国大附属校は潮田玲子や池田信太郎を輩出
アーバン スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> 近年<u>スケボー</u>や<u>ブレイキン</u>、<u>パルクール</u>などのアーバンスポーツを強化中 	<ul style="list-style-type: none"> 小倉のスケボーパークには年間1.4万人が集う(市が4,800万円を投資) 	<ul style="list-style-type: none"> ブレイキンで日本初の国際大会を2023年に開催、2024年はパルクール世界選手権を開催 	
その他		<ul style="list-style-type: none"> <u>競輪</u>や<u>競艇</u>などの公営競技の施設を有する 北九州市民球場でソフトバンクの試合を開催(年2試合) 	<ul style="list-style-type: none"> バレーボールネーションズリーグや卓球WTT男女ファイナルズ等の大規模国際大会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 今永昇太、内村航平、吉岡稔真(競輪)、植木通彦(競艇)なども北九州市スポーツ大使

北九州市のプロスポーツチーム等

- ・北九州市をホームタウン(準ホームタウン)とするチームが多数存在し、市民にトップレベルのスポーツを観る・親しむ機会を提供
- ・全国的に有名な企業スポーツチームやスポーツ強豪校が存在

◇ギラヴァンツ北九州



◇ボルクバレット北九州(フットサル)



◇北九州下関フェニックス(野球)



◇ライジングゼファーフクオカ(バスケット)



◇敬愛高校(金鷲旗高校柔道大会優勝)



◇takagi北九州Water Wave(ソフトボール)



◇日本製鉄堺ブレーザーズ(バレーボール)



◇九州国際大学
附属高校
(甲子園出場)



◇黒崎播磨
(駅伝)



◇北九州市立高校
(高校駅伝)



主な大規模国際スポーツ大会・キャンプ地の誘致・開催

▼ラグビーワールドカップ2019 ウェールズ代表チームのキャンプ地



▼2021世界体操・新体操選手権 北九州大会



世界選手権開催経験における国内外での高い評価

・北九州市の豊富な誘致実績や大会開催ノウハウの蓄積を生かし、「エコフレンドリーなスポーツ大会」といった特色ある大会を実現するなど、北九州市の持つ大会運営サポートは国内外から高く評価されている。

▼WDSF Breaking for Gold
World Series in 北九州



▼バレーボールネーションズリーグ2024 福岡大会



▼ツール・ド九州2024 小倉城クリテリウム



▼第2回FIGパルクール世界選手権北九州



▼WTTファイナルズ福岡



令和6年度 北九州市で開催した大規模国際スポーツ大会

・バレーボールネーションズリーグやツール・ド・九州クリテリウム、パルクール、卓球WTTなど多彩な大規模スポーツ大会がまちの賑わいを創出

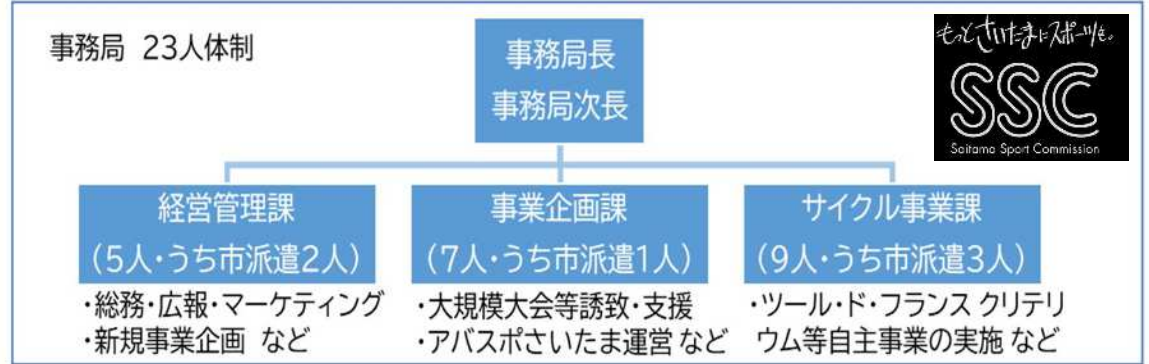
年月	大会名	開催地	予算額	来客人数	その他備考
R6/4月	太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2024(ラグビー女子7人制)	北九州スタジアム	—	1日目:1,524人 2日目:1,334人 合計:2,858人	・女子7人制ラグビーの国内トップを競う大会で、国内で開かれる4大会のうちの第1戦で、1日目はプール戦、2日目は順位決定トーナメント戦を行う
R6/6月	買取大吉バレーボールネーションズリーグ 2024 福岡大会	西日本総合 展示場新館	—	男子大会 45,129名 女子大会 39,392名 計 84,521名	・オリンピック、世界選手権に並ぶ国際大会で、男子は予選ラウンド第2週、女子は予選ラウンド最終の第3週で開催。女子はこの大会でパリオリンピックの出場権を獲得・男女共にファイナルラウンドで銀メダルを獲得し、男子は主要国際大会で47年ぶりの銀メダル
R6/8月	ラグビー女子日本代表「太陽生命 JAPAN RUGBY CHALLENGE SERIES 2024」 (対アメリカ代表)	北九州スタジアム	—	2,300人	・日本の世界ランキングは11位、アメリカは世界ランキング7位 ・地元選手では、長田いろは選手(ランカー、キャプテン、門司学園高校卒業)、吉村乙華選手(ロック、東筑高校卒業)
R6/9月	2024体操日本GALA in 北九州	北九州市立 総合体育館	200万円	2,866人	・2024パリオリンピックの終了後、日本代表選手らによる、全国からの応援への感謝、競技の普及、選手の価値向上などを趣旨としたイベント
R6/10月	ツール・ド・九州 2024(小倉城クリテリウム)	小倉城周回	1,500万円	14,000人	・昨年度に引き続き、2年連続の開催
R6/11月	第2回FIGパルクール世界選手権	勝山公園内 特設会場	1億円	3日間合計 30,000人	・第1回の東京開催に次ぎ、西日本初の世界大会開催
R6/11月	卓球WTT男女ファイナルズ福岡2024	北九州市立 総合体育館	—	15,245人	・男女世界ランキングトップ16名とダブルス8組が年間王座をかけて争うシーズンファイナル(九州初開催)

【参考】他都市事例(さいたま市の取組)

・スポーツで地域経済を活性化する推進エンジンとなる組織として(一社)さいたまスポーツコミッションを設置。市や民間企業との協働のもと、スポーツによるまちづくりを実施

さいたまスポーツコミッション SAITAMA BE HAPPY SPORTSスポーツ先進都市づくりを、わたしたちと共に

- 名称:(一社)さいたまスポーツコミッション(略称:SSC)
- 設立:2018年12月10日(法人化)
- 目的:スポーツ資源・観光資源を活用し、各種競技大会やスポーツイベント誘致等を通じ、スポーツ機会の創出・地域活性化
- 組織体制:理事会のもとに置かれる事務局は、事務局長以下23人体制。



行政との関係



正会員



・その他、パートナー会員35社(2024年時点、SSC提供資料より)

【参考】他都市事例(さいたま市の取組)

・首都圏に位置するとともに、大規模なスポーツ施設の充実や、サッカーをはじめとしたプロやアマチュアのトップチームの活動などスポーツ資源に恵まれた強みを生かし、スポーツで地域経済の活性化を実現

スポーツイベントの開催

○2024ツール・ド・フランス クリテリウム

- ・日時:令和6年11月2日
- ・場所:さいたま新都心駅周辺
- ・内容:
 - (1)クリテリウムレース(海外招聘選手、国内選手によるレース)
 - (2)タイムトライアルレース
 - (3)コース及びイベント会場での一般参加体験イベント
 - (4)海外招聘選手との交流 など



○さいたまマラソン



アバスポさいたま

○子育て世代を対象としたアーバンス ポーツ体験イベントを定期的開催

- ※「アバスポふらっと野田小プール」
初心者や子育て世代の親子がアーバンスポーツを楽しむための、傾斜等のないフラットな空間
- <場所>
さいたま市立野田小学校プール
- <利用できる種目>
スケートボード、BMX
インラインスケート
- <利用料金>
無料
- <利用できる日>
土曜日・日曜日・祝日等
- <時間>
午前9時から午後5時まで
- <対象年齢>
3歳以上



スポーツイベントの誘致・支援

○開催サポート

- ・スポーツ施設の提供
- ・観光スポットに関する情報提供
- ・観光施設との調整
- ・開催助成金制度(予算の範囲内)
- ・飲食店などの専門業者の紹介

○開催助成金の主な交付条件

- ・市内を会場とするもの
- ・市外から相当数の集客が可能なスポーツイベント
- ・経済波及効果等の調査に対して協力できるもの
- ・さいたまスポーツコミッションの協力を得られていることを広報できるもの

□ スポーツイベント誘致・支援

SSC誘致大会規模別一覧

年度	規模				合計
	関東	全国	国際	その他	
H23	1	1	0	10	12
H24	7	8	2	14	31
H25	12	10	1	11	34
H26	10	11	0	18	39
H27	12	8	2	19	41
H28	15	8	1	21	45
H29	11	11	0	17	39
R30	11	8	3	16	38
R1	14	14	0	17	45
R2	18	11	0	19	48
R3	19	7	0	22	48
R4	12	13	1	25	51
R5	10	12	1	25	48
合計	152	122	11	234	519

- 財政支援
- 行政協力の調整
- 関係企業の動員
- 写真の提供・掲載
- 観光情報の支援
- 広報・PR支援

課題と今後の方向性

<これまで>

- ・スポーツが持つ可能性を引き出すため、大規模国際スポーツ大会をはじめ、ソフト・ハード両面の施策において全方位的に推進し、スポーツ活動の基盤を整備してきた。

<課題>

- ・全世代・全競技のニーズに応えつつ、ウェルビーイングの実現など、スポーツの価値・効果を生み出す活動への支援を持続するための財源に限りがあり、薄く広い支援にならざるを得ない
- ・スポーツ施設の保有量が相対的に多く、老朽化が進んでいることから、今後の管理運営コストの増加が予算を圧迫する可能性がある
- ・大会・イベントの運営にとどまらない、都市の活性化や裾野の拡大などの付加価値付与の視点が必要
- ・スポーツを通じて北九州市の魅力を知っていただくための効果的な情報発信が必要



<今後の方向性>

- ・「全方位」から「重点化(まちの賑わい創出＝スポーツで稼ぐ)」へ
- ・「スポーツで稼ぐ」戦略を明確化し、スポーツで稼ぎ、その果実を様々なスポーツ活動に循環させ、スポーツで「まちが成長」の好循環につなげる
- ・スポーツ施設については、公民連携による「公共施設の最適化」に向けて、公共施設マネジメントの考え方に基づき「利用者目線」で検証

END